

防災通信 No.19

この通信はみなさんの防災意識を高めていただき、少しでも被害を小さく出来ることを目的に作成しています。ご意見等ありましたらおよせください。

(グリーンテラス本郷台自治会)

大雨・台風による 災害！

7月から10月にかけては日本に接近・上陸する台風が多くなり、大雨、洪水、暴風、高波、高潮などをもたらします。また、川の氾濫や土石流、がけ崩れ、地すべりなど、人々の生活や生命が脅かされるような自然災害が度々発生しています。

最近では、**短時間に狭い範囲で非常に激しく降る雨が頻発**し、特に宅地等の開発が進んだ都市部では、川の急激な増水が生じたり、道路や住宅の浸水、道路のアンダーパス等の地下空間の水没といった被害や雨で増水した川や田んぼを見に行き流されてしまったり、浸水した道路で側溝の境界が見えにくいために転落したりする事故も発生しています。(内閣広報室資料参照)



【暴風による災害】

風で飛ばされてきたものや、周辺の倒木により電線が切れて停電することが考えられます。また、倒木は建物への被害も考えられます。最大風速が40 m/sを超えると電柱が倒れたりすることがあるそうです。さらに、台風の周辺では、暖かい空気が流れ込み大気の状態が不安定となり活発な積乱雲が発生して竜巻等の激しい突風被害も考えられます。

グリーンテラスでも第5公園の木が倒れ住宅内への通路をふさぎ緊急車輛の妨害になることもあります。チェーンソー等切断道具があってもいいですね。

【土砂災害】

土砂災害は、すさまじい破壊力をもつ土砂が、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪ってしまう恐ろしい災害です。山腹や川底の石や土砂が集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象を土石流といいます。また、山の斜面や自然の急傾斜の崖、人工的に造成された斜面が突然崩れ落ちることを崖崩れといいます。

栄区防災マップ・土砂災害ハザードマップより

グリーンテラス周辺には、土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域が存在します。似たような環境で天神橋までの間に2ヵ所、がけ崩れが発生しました。10年以内の出来事です。1ヵ所は少しの被害ですみましたが、もう1ヵ所の被害は大きく車数台が被害にあいました。ここでのポイントとしては、がけ崩れは下側への注意だけでなく、日頃から上側への注意も必要ということです。公田小学校側では、山の斜面の木が大きくなると上部が重くなり倒木につながる為、ある程度の大きさで伐採しています。同様に、グリーンテラス1号棟・12号棟西側斜面や公田団地への階段西側の木々は、大きさや木の状態をよく把握・管理し、倒木に備える必要があるでしょう。

栄区が開設する避難場所～土砂災害～

※笠間小学校は水害も含む

笠間小学校※・本郷台小学校・旧庄戸中学校・桂公田町会会館

公田小学校ではありません ご注意ください！

【避難指示（警戒レベル4）】 【土砂災害警戒情報＝横浜市南部＝（警戒レベル4）】

【避難準備・高齢者避難開始命令（警戒レベル3）】 発令により開設されます。

令和3年5月20日から

ひなんしじ

避難指示で必ず避難

ひなんかんこく

避難勧告は廃止です

警戒レベル

4

警戒レベル	新たな避難情報等		これまでの避難情報等
5	 災害発生 又は切迫	きんきゆうあんぜんかくほ 緊急安全確保 ※1	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
~~~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~~~			
4	 災害の おそれ高い	ひなんしじ <b>避難指示</b> ※2	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	 災害の おそれあり	こうれいしゃとうひなん <b>高齢者等避難</b> ※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	 気象状況悪化	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	 今後気象状況 悪化のおそれ	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。

※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、  
すでに安全な避難ができず  
命が危険な状況です。  
**警戒レベル5緊急安全確保の  
発令を待つてはいけません！**

**避難勧告は廃止**されます。  
これからは、  
**警戒レベル4避難指示**で  
**危険な場所から全員避難**  
しましょう。

避難に時間のかかる  
**高齢者や障害のある人は、**  
**警戒レベル3高齢者等避難**で  
**危険な場所から避難**  
しましょう。

内閣府(防災担当)・消防庁



ひなん  
「避難」って  
何すれば  
いいの？

小中学校や公民館に行くことだけ  
が避難ではありません。  
「避難」とは「難」を「避」けること。  
下の4つの行動があります。



### 行政が指定した避難場所 への立退き避難

自ら携行するもの

- ・マスク
- ・消毒液
- ・体温計
- ・スリッパ 等



### 安全な親戚・知人宅 への立退き避難

普段から災害時に避難  
することを相談して  
おきましょう。

※ハザードマップで安全か  
どうかを確認しましょう。



普段から  
どう行動するか  
決めておき  
ましょう

### 安全なホテル・旅館 への立退き避難

通常の宿泊料が必要  
です。事前に予約・  
確認しましょう。

※ハザードマップで安全か  
どうかを確認しましょう。



### 屋内安全確保

ハザードマップで以下の  
「3つの条件」を確認し  
自宅にいても大丈夫かを  
確認する必要があります。

想定最大浸水深

※土砂災害の危険がある  
区域では立退き避難が  
原則です。



「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

- ① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない  
(入っていると…)



流速が速いため、  
木造家屋は倒壊する  
おそれがあります



地面が削られ家屋は  
建物ごと崩落する  
おそれがあります

- ② 浸水深より居室は高い

3・4層	5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)
2層	3m~5m未満 (2階床上~軒下浸水)
1層	0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

- ③ 水がひくまで我慢でき、  
水・食糧などの備えが十分  
(十分じゃないと…)

水、食糧、薬等の確保が困難になる  
ほか、電気、ガス、水道、トイレ等の  
使用ができなくなるおそれがあります



※①家屋倒壊等氾濫想定区域や③水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認して下さい。